

# OB会報

## 第4号

### 湘南高校サッカー部OB会

# アソシエーション フットボール

## 中村正義 (第3回)

湘南高校のグラウンドで、毎年一月十五日の祭日に、O・B、現役合同のサッカー祭には、O・Bの一員として私は、楽しみに参加してきた。

私は、大正十二年四月に、鎌倉師範附属小から一年生として入学した。

初代校長赤木愛太郎先生は、「学問においても、スポーツにおいても、日本一になれ」と口癖のように言われた、青年になりきれない、まだこどもの私たちも、期待されているのだという思いがいつも離れなかった。

当時、柔・剣道は正科であったが、選択ができるので柔道をえらんだ。柔道は機敏に全身を動かして、相手の押しの力も、曳きの力も逆を利用して、わざをかけてたおすことができる。マラソン競技も好きだった。よく頑張ったものだ。百メートル短距離では好敵手ランナーとせりあった。ところが、鎌倉師範附属小から来たからには、アソシエーション・フットボールができるだろう、と言うのでマークされてしまい、体育の時間は勿論、昼休み、そして放課後もボールを蹴ることに専心することになった。当時は、サッカーとは言わないで、アソシエーション・フットボールと称していたようである。

二年生の時、数学の教師として赴任してこられた後藤基胤先生が、若い私たちのあこがれの先生となった。グラウンドでは、まだ誰も持っていない蹴球靴をはいて、見事なボールさばきをするピチピチした先生の姿を、私たちは目をみはって見ていた。

そのうちに、イレブンができたのは、後藤先生の頭脳の中で熟成されたらしい。

後藤先生の白羽の矢がとんだ。

第一回生では、天野武一・中山一郎先輩。

第二回生では、岩淵二郎・天野健二・伊藤基彦・大木宗太郎・石田貞一・石川滋彦・越地・志賀昇先輩。

第三回では、渡辺由之(旧姓小川)・真田孝・中村清康君と中村正義。

第四回では、高梨春雄君。

まだ、貢献なさった方がおられますが、姓名を失念してしまい、ここに書きとどめることができませぬ。

チームの要(かなめ)は、岩淵先輩であった。

O・B会では、シュート板を、岩淵先輩の亡くなった翌年に、岩淵先輩の未亡人にも参列願って、学校へ寄贈の式典を挙行了した。

O・B会会長の天野先輩が、まず一番にシュート板に向ってボールを蹴っていた。二番目片山豊(旧姓麻生)君、つづいて私共参列者が順次ボールをシュート板にたたきつけた。

六十年も前には、スタンドに向ってシュートしたボールは不規則な角度で戻ってくるが、シュート板にあてたボールは計算された角度をとってはねかえってくるから、臨機応変の身のこなしができる。現役の諸君はわざを磨くの十分に役立ててほしい。



## 旧制OBも

### ボールを蹴ろう

内田康侍(15回)

昨年のOB会報では、常盤先輩(6回)に大目玉を喰った旧制中学OBであるが、今年の蹴球祭で、同先輩から提案されたユニホームを早速注文、5月3日の慶応サッカー祭りに湘南四十雀が招待されたの間に合わせた。常盤先生の激が効いて、22枚の新調ユニホームは即日売り切れた。(このユニホームは、その後も購入希望者がありますので、来年1月15日の蹴球祭で注文を取り、追加製作したいと思いますので、当日までに御発注下さい。担当内田)この調子なら第2回名門中学の大会も、今度は集ってくれるだろうと愁眉を開いた次第。

さて、その第2回は11月23日、東京ガスタン住グラウンドで開かれた。今年は湘南、附属中、五中、八中、神戸一中の他、広島高師附と広島一中の連合軍が参加し、今年の湘南勢は名選手が多勢参加し、優勝かと思われたが、昨年の後遺症があったのか第四位と不本意な成績に終り、楽しみを来年以降に延ばすこととなった。(田村君が別途報告)

この大会は、若手(といっても?オカナ)が集める方が強いのだが、今なおボールを蹴る

機会の多い人が有利なのも事実で、何処の学校もSOIの出席率の多い人が活躍していた。従って、わがチームも月一回位はボールを蹴る機会を作ってほしいものである。大会の集まりには、田村君に世話になっているが、若手の方でグラウンド確保し、折にふれてボールを蹴れるような機会を作るよう組織化してほしいものである。グラウンドを確保し、十一名以上集まる見込みさえつけば、この名門チームの他に、慶応、早稲田、北大、成城、武蔵、仙台一中等、相手には事欠かないはずである。我々超OBも、よい成績を残して、現役諸兄に多少なりとも、よい刺激としたいものである。

### 「超OBの活躍」

田村 恵 (18回)

五月三日、慶応サッカー部祭が日吉グラウンドで開催され、湘南OBが招待された。年齢は、四十歳以上で年齢別に三試合行われた。湘南OBは、超OBが約三〇名参加し、第一三回卒の小熊幸雄氏が、OBは第二三回卒の桑田、海老原、松浦氏等が、若手OBは第三三回卒大内健嗣氏が各々中心となってチームが編成され取組したが、残念ながら2-3で敗れた。

また、中村正義氏(三回)、松村豊雄氏(五回)、駒崎虎夫氏(八回)の大先輩も応援にこられ、慶応OBと旧交を暖めた。

### 名門中学サッカー大会

第二回名門中学サッカー大会が十一月二十三日、東京ガス南千住グラウンドで昨年に引き続き開催された。今回は広島一中、広島高師附属中連合チームが参加、湘南中、東京高師附属中、五中、八中、神戸一中の六チームによって熱戦が展開された。

試合はA、B二グループに分れ、各グループの一位から三位のチームが、各、順位を単方式で行われた。

湘南中は、第三回卒の常盤嘉一郎大先輩を筆頭に、第二七回卒の栗原、山本両氏の若手?更に旧制高校で活躍された吉武、磯崎、楠田氏等総勢二十二名の活躍によって、大チーム中四位となった。戦績は次の通り

対五中0-1負 対広島3-0勝  
三位決定戦 対八中2-3負

優勝は五中

来年も多数の参加をお願いします。

### 第二回名門中学

#### サッカー大会出場者

常盤 嘉一郎	小熊 幸雄
内田 康治	服部 斐夫
戸沢 澄	菅原 留意
海老原 純	松本 良二
田村 恵	八星 孚
小西 一郎	松本 兵太
桑田 孝	松浦 正美

矢住 直亮 小林 忠生  
小田島 三之助 栗原 克夫  
山本 修 吉武 長英  
磯崎 弘 楠田 進

### 惜しくも優勝を逸す!

#### 県四十雀大会の湘南ベガサス

第二回の県四十雀サッカー大会の決勝が六〇年十一月二十四日に、雨の中の南足柄体育センターで行なわれ、我がベガサスは神奈川県四十雀に〇-三で破れ、惜しくも準優勝にとどまった。

今年の同大会は各都市から十五チームが参加、七月から三ブロックにわかれてリーグ戦を開始、湘南ベガサスは連戦連勝で決勝トナメントへ進んだ。各ブロック一、二位に敗者復活戦勝者に加え、計八チームでの決勝トナメントでは、初戦に昨年度優勝チームの綾瀬四十雀を、準決勝ではAブロック一位の茅ヶ崎四十雀を軽く破り、意気拳る我がチームは初優勝を目指す。しかし往年の名選手を揃える神奈川県四十雀の前に、惜しくも念願を達成できなかつた。

八年目を迎えたベガサスにとって今年は大いに充実した年であった。38回生の香川、長谷川両君、四十雀大会規定の文字通り最年少(40才)の39回生小杉君の加入により戦力もア

ップ、勿論27・28回生あたりの焼跡鬧市派的根性も健在で、七月八日の予戦リーグなどでは、三〇数度の炎暑の中、結構走りまわる。上記大会を含め年間に十六試合行い、参加クラブ員数も延べ二六八人に達した。一試合当りの参加者数も年後半には常に20人近くになり、試合後の祝勝会は大いに盛り上がり、ゲームの苦しさも忘れ、つい帰宅が遅くなることも少なくなかつた。

十二月二十一日の納会で今年の幕を閉じるが、来年度も又、四十雀大会・対小田原高OB・B戦・YCAC戦などを軸に試合が予定されている。さらに、結成十周年を目前に海外遠征の話なども出て益々意気はあがっている。最後にクラブへの新規加入をお誘いしたい。四十雀大会は年令下限があるものの、通常の試合では勿論そんな制限はない。39回以降のOB諸兄は、老害はありませんのでベガサスで大いにサッカーを楽しみましょう。

#### ◎クラブ事務局

〒248 鎌倉市稲村ヶ崎二-三-十三 大内健嗣(31回)

○四六七-二二-五七八二

〒255 中郡大磯町東町一-七-一四 井上 孝(36回)

○四六三-一六-一四三三四

■60・2月

0対4 YCAC  
1対2 茅ヶ崎四十雀  
1対2 南足柄四十雀



- 3月 0対1 小田原高校OB
- 4月 2対2 神奈川四十雀
- 5月 1対2 栄光学園OB  
0対1 藤沢四十雀
- 7月 四十雀大会予選  
6対0 早園FC
- 8月 5対2 神奈川四十雀  
四十雀大会予選  
2対3 横 賀四十雀
- 9月 40対0 大和四十雀  
四十雀大会予選
- 10月 1対0 横浜シニアB  
四十雀大会予選  
3対1 藤沢四十雀
- 11月 40対0 大和四十雀  
1対1 綾瀬四十雀 準々決勝  
PK412  
3対2 茅ヶ崎四十雀 準決勝  
0対3 神奈川四十雀 決勝

### '85年の湘南

### ボールゲームクラブ



関 佳 史 (48回)

前回、初めて会報で紹介したこのクラブ、社会人の25才と35才を中心に活動を続けています。

今年の話題は、懐しいメンバー二人の復帰。いずれも卒業後、湘南クラブで長く活躍してお二方です。相馬保夫さん(46回生)は、西ドイツ、ベルリン自由大学で、'81年8月から二年間、ドイツ労働運動の研究で留学。先年帰国して当クラブにも時々参加しています。

もう一人は、細川周平君(48回生)。イタリアのポローニャ大学に、'82年10月から約二年間留学し、記号論を専攻。帰国後、イタリア旅行の体験記やその他にも訳書多数を上梓しています。特に築摩書房から出版された「トランスタリアアエクスプレス」では、イタリアサッカーの話題がたいへん興味深く展開されていますので、ご一読をお勧めします。さて、チームの活動状況ですが、ヨーロッパ帰りのそれも、ドイツとイタリアというヨーロッパサッカーの神髄をじかに見てきた二人が加わったためか、八試合を行い、本年も無敗。設立以来まだ負けていません。試合は、現役Bチームとの対戦が半分以上ですが、

対外試合の成績は、9月8日に、都民銀行を3-1、大洋漁業を1-0で敗り、11月23日には、綾北中学OBと引き分けています。地域リーグにも加盟していませんので、グラウンドの問題などもあり、マッチメイクがうまくいかず、この場をお借りしてクラブ員諸氏にはお詫びしたいと思えます。また、適当な相手があれば、ご紹介いただきたいものです。最後に、当クラブの設立目的の一つに、「家族ぐるみで楽しむ」ということがあります。

本年は、中嶋君・細川君・村上君(いずれも48回生)の三人がご結婚され、三組の家族会員が誕生しました。サッカー以外にも、テニス・ソフトボールなどを盛り込み、「アフターゲーム」も、益々楽しくなっています。

### 湘南クラブ便り

菊地 康 (57回)

湘南サッカー部OBによって作られている湘南クラブは、ほとんどが大学生によるメンバーです。現在、藤沢二部リーグに所属し、試合を重ねています。昭和六〇年度の現在の試合結果は、二勝二敗一引き分けで、あと、一試合残っています。上チームの内、下位二チームは、自動的に三部リーグに転落してしまうので、がんばっています。なにぶんメンバーのほとんどが、大学のサッカークラブ

や同好会に所属しているため、メンバーを集めるのに一苦労です。しかし、メンバーは皆若く、クラブなどでサッカーを練習しているため、技術、体力的に充実しています。また、高校時代にいっしょにサッカーをやった先輩、後輩が、再び試合をやるのも、また楽しいことです。これからは、湘南クラブを持続させ(目標は高く)一部リーグ進出をねらいたいと思います。

### 計 報

去る5月19日午前2時OB会に多大の御恩のある香川幹一先生(元部長)が自宅ご療養中の所御他界されました。

先生は、昭和11年より湘南中学に赴任以来、本サッカー部部長に着かれその情熱を傾け指導されました。

対外的にも、全日本高体連サッカー部長をはじめ、県高体連会長、同サッカー専門部長、県サッカー協会副会長を歴任され、県サッカー協会顧問の重席であられ、又高校教育界においても地理教育の一人者とし、また本校を含め、平沼、小田原、相模工大附属高校各校長を歴任されその足跡は多くの影響を与えました。また御子息である三兄弟はともに本校サッカー部の中心選手として活躍され、OB会に名を連ねておられます。

慎しんで、御冥福をお祈りいたします。 合掌

# 「カミナリ親父 去る！」

湯浅 健 二 (46回)

読売サッカークラブ監督、ルディー・グーテンドルフの、契約切れによる退任が決まった。日本リーグ2連勝、天皇杯、JSLカップ、今年のキリンカップでの好成績、また、日本サッカー全体のレベルアップに、プロ導入がいかに大切であるかを常に強調した事。彼がこの2年半の契約期間中に成した有形無形の功績は非常に大きなものであった。

私は、この間、彼のコーチとして常に行動を共にし、勝利、敗北を経験した。30年以上プロコーチとして生活してきた男の哲学、したたかさ。迫力があつた。最終的な決定権を行使する時の、有無を言わせぬ態度。選手一人一人の仕事の内容と、それに伴う責任を明確にすること。そして、唯一の目的である「勝利」に向かって、チーム全体に闘う雰囲気を作る事。どれをとっても一流である。

そこには、彼の仕事の方法論を支える上で一番重要な、プロ独特の緊張関係が常にあつた。ただ、この緊張関係も、張りつめていた糸の一本でも切れて崩壊するものである。

プロコーチ、ルディー・グーテンドルフ。ガンコで自分勝手な面を持つカミナリ親父である。それゆ、チームの中に関して、私の中だけに留めておかなければならない事も多々ある。それは、これからの私のプロコーチとしての生活における血となり肉となるだろう。

## タイムズ (東タイ) 昭和60年(1985年) 12月9日 (月曜日)



細川周平

ユベントスの試合を見るのは一年ぶりのこと。去年の末までイタリアにいたときは、テレビやスタジアムでいつも見ていたものだけ

ど。ポーランド代表のボニエク、イタリア代表のロッシ、タルデリがぬけて、「役」不足でないかと懸念していたが、開幕以来、8連勝(というよりは、アウェイのゲームで4連勝ということだ。こんなことはめつたにない)で、イタリアリーグのトップを独走中、その報をきき、今回の来日には大きな期待をかけていた。そしてそれは裏切られなかった。裏切られたのは、プラティニのワンマン・チームという想像だった。ことにマンフレディア、ローマ

らみは絶妙だった。この日は、二人がミッドフィールドとトップを確実に把握し、それがラウドルツの

ようだが、今後の活躍を期待できそう。アルセンチンのボルキは今回の目玉選手だったらしいが、スピードこそあれ、戦術的なカンはまだまだ、と感した。うまく他人に任せられることで伸びていくタイプか。

### から来た2人に魅了

見事な得点に結びついた。実際、ゴールラインから上がると思われた瞬間、ボールに追いつきキーパーの逆をつく角度のないシュ

ら移籍したというマウロを見るのは、これが初めてだ。それが初めから、なかなか鋭い足技をもっている。また戦略的さは何だ。イレファンが歡喜の抱擁をしている最中に、

### トヨタカップ観戦記

細川周平 (48回)

ほそかわ・しゅうへい 一九五五年生まれ。湘南高でサッカーをやり、現在は音楽学、記号学の分野で活躍。著書に「ウォークマンの修辭学」「トランス・イタリア・エクスペアレス」がある。

★蹴球祭・総会のお知らせ★

1月15日(祝) 於 湘南高校

10時～17時

10:00～11:00

総会 (大会議室)

11:10～17:00

試合 (グラウンド)

- 今年は総会を最初に行います。会長・事務局長挨拶の他、副会長職の提案・事務局移動の件等話し合う予定です。
- グラウンドの試合では、藤沢四十雀等のご有志を招いて、旧制中学OB・50代・40代の年代別紅白戦など色々楽しみたいと考えております。お誘い合せの上多数ご参加下さい。尚、お昼頃には豚汁の用意をするつもりです。

＜ お願い ＞

■61年度会費納入の件

60年度は皆様のご協力ありがとうございました。本年もよろしくお願いいたします。

- ・社会人 5,000円
- ・学生 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、ご欠席の方は、お手数ですが同封の振替用紙にてお振り込み下さるようお願い申し上げます。尚、下記銀行口座も従来通りでございますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金  
 口座番号 019166  
 湘南高校サッカー部OB会  
 安保隆文 TEL 0467-22-1794

■事務局移動のお知らせ

61年度よりOB会事務局を下記へ移動いたします。新しい名簿作成も考えておりますので、住所等変更がございましたらご連絡下さい。

〒241 藤沢市鶴沼神明5の6  
 県立湘南高等学校内  
 サッカー部OB会 藤塚久雄  
 TEL 0466-26-4151

60年度会計報告

(60.1.15～61.1.14)

収入

59年度繰越し	82,404円
60年度会費(寄付含む92名)	469,000円
小野曄氏(17回)より寄付	100,000円
銀行利息	1,262円
計	652,666円

支出

蹴球祭関係費(1月)	62,450円
ボール代・飲食費	
現役寄付(3月)	300,000円
香典・花輪(6月)	20,000円
印刷・通信費(7月)	38,200円
合宿差入れ(8月)	20,000円
現役寄付(12月)	100,000円
会報印刷通信費(12月)	69,440円
雑費(御礼・文具等)	5,300円
繰越し	37,276円
計	652,666円

現役への寄付は昨年度マイナス分をカバーできました。今後共ご協力をよろしく。

＜事務局便り＞

●故岩淵先生の追悼行事以来、安保氏宅を事務局にOB会活動を行ってまいりましたが、OBの藤塚氏が母校に赴任され、実務を引き受けて戴いておりますので、61年度より事務局を湘南高校内に移動致します。長年にわたり、事務局長として、OB会組織の基礎づくり及びその発展に中心となつてご尽力戴いた安保氏に心より感謝申し上げます。今後とも皆様の御協力をお願いいたします。

●会費納入の件につきまして、今年度より、郵便局に口座を設けました。少しでも皆様方にご便利にと振替用紙も用意しました

蹴球祭には

多数のご参加を!!

のでご協力をよろしく。8月には夏の集まりのご案内を兼ねて会費納入状況をお知らせ致しますが、昨年は年代によっては一人の納入者もない代がありました。各代のキャプテン・マネージャーは責任を持ってOB会の活動に参加して下さい。

●61年度OB会幹事をご紹介します。

安保(15回)・内田(15回)・田村(19回)  
 栗原(27回)・大内(31回)・井上(36回)  
 相羽(41回)・山口(45回)・関(48回)  
 中島(48回)・武藤(53回)・藤塚(54回)

よろしくお願いいたします。

現役報告

'84-'85 キャプテン

前田 浩

実質的には2年と2ヶ月という短い間だったサッカー部在籍の中で、実に多くのことを学ぶことができました。何もわからず、ただボールを蹴っていたのが、いつしか勉強も忘れて、皆がサッカーに打ち込めたことは、将来までずっと心に残る日々となったと思います。僕等の代からは、先輩でもある藤塚先生が新たに顧問の先生として来られ、鈴木先生と共に、よりきめ細かな御指導を受けたにもかかわらず、これといった戦績を残せなかったことで、自分たちの力の至らなさを痛感させられたものです。後輩たちには、ぜひ湘南サッカー部の伝統を受け、精一杯の努力を続けてほしいと思います。最後に、長い間厳しく、かつ温かく御指導いただいた鈴木、藤塚両先生、また多方面にわたって、現役生たちを励まして下さったOBの方々に、感謝の意を表したいと思えます。本当に有難うございました。

■60・1月 新人中央大会

湘南 0対0 桐蔭学園

PK113

故 香川氏ご遺族より寄贈のペンテル



- 2月 市民大会
  - 0対2 藤沢北
- 3月 静岡遠征(3勝2敗1分)
  - 3対0 静岡南
  - 1対0 静岡聖光学院
  - 0対1 枚方FC
  - 1対0 愛知
  - 1対2 都立駒場
  - 1対1 機山工
- 3月 筑波大附属定期戦1対0で勝利
- 4月 関東大会予選
  - 2対1 鶴嶺
  - 2対0 大和
  - 0対2 藤沢北
- 5月 総体県予選
  - 1対0 岡津

- 7月 第10回強化研修会
  - 2対1 大沢
  - 0対1 大清水
  - 第29回浦高戦 0対2で勝負
- 8月 選手権予選
  - 1対1 桐蔭
  - 0対2 国士館
  - 2対2 学習院
  - 0対4 金沢桜丘
  - 1対0 茂原農
  - 0対2 茂原工
  - 1対1 日大明誠
  - 0対4 静岡
  - 1対1 木更津中央
  - 1対2 市静岡
  - 3対0 暁星

編集後記

2対1 寛政  
6対1 釜利谷  
1対2 相工大附  
10~11月 新人戦地区大会  
0対3 七里ヶ浜  
4対2 鎌倉学園  
2対2 大船  
勝ち点差で県大会進出ならず

会報第4号をお送り致します。  
△事務局便りVでも触れましたが、55年以來ご自宅を事務局に開放され、OB会組織の土台づくり及び活動の中心となつてこられた、安保氏に皆様を代表して御礼申し上げます。今後も役員として、若い幹事・事務局員達のバックアップをお願いしたいと思います。今後は、湘南高校内の事務局を中心に実務を行います。各種お問い合わせ、会報等への資料、住所変更などご連絡下さい。蹴球祭には多数のご参加を……。

電話の  
お問合せ  
安 保 0467(22) 1794  
相 羽 0445(893) 4824  
藤 塚 0466(33) 2579